

新しい授業づくりの文化をつくる

令和5年10月23日実施
「能力ベースの授業づくり実践講座」通信
第14号 Gセット 授業研究会

Gセット授業研究会 10月23日(月) @片山中学校
単元名:「形と色彩」 授業者:曳田 佳隆先生 (片山中学校)
「能力ベース授業づくり実践講座」では、教材研究会と授業研究会を1セットとして実施しています。今回は G セットの授業研究会を行いました。本単元は「自分らしい名刺を完成させる」という主題の実現に向け、それぞれの生徒が創造的活動のサイクルを回しながら学習を進めるといった提案でした。齊藤先生のお話では、教育 DX とは何かについて明らかにしたうえで教育 DX を視野に入れた教師の仕事についてご講義いただきました。

Gセットから学ぶ 授業づくりのポイント
教師の専門性を見失うことなく、教育 DX を進める
➡教育 DX が進む中で、学校教育として教科の本質を見失ってははいけません。教育DXの良さをうまく活かしながら、これからの授業づくりを描いていくことが大切です。子供たち一人ひとりと、対峙しながら、丁寧にやり取りをして子供自身が学びを推し進めるために、教師の専門性を磨いていきましょう。

授業者の学び

創造的活動を自ら推し進められる生徒像を目標の一つに据え、授業づくりに取り組みました。日頃の授業とは違う形で行った授業を通じ、創造的活動の重要性や、教員の適切なサポートの必要性も強く感じる事ができました。また、当たり前のことかもしれませんが、十分に準備や段取りを整えることや、何事にも段階があることを改めて学びました。目指す生徒像に向けて9年間かけてじっくり力を伸ばしていく必要があると思います。

授業者の提案



授業者
曳田 佳隆 先生

Why

子供達が身につけるべき資質・能力は？

- 形や色彩の性質や効果を理解し、表現に生かす力
- 性質を活かしたコミュニケーション能力

What

子供達の学習対象は？

- 形や色彩の性質や効果や、伝えるための表現に活かす方法についての学習を通して、創造的活動を行う。
- 創造的活動のサイクルを回すことで、自己調整する感覚。

How

子供達の学習過程は？

時	学習内容・学習活動	
1	導入・準備 ・様々な名刺を見る・自分の名刺を自由につくる	
2	名刺のアイデア ・第1時の作品を振り返り自分の個性を考え主題を生み出す	
3	生徒たちが関わり合いながら、自分に必要な知識を自分に合ったやり方で学習する。 【インターネット、書籍、教員によるレクチャー、友人の意見等】調べたことはオクリンクで提出。	
4		
5 本時		①色 ・色の心理的効果 ・細かい色の調整 ・色の組み合わせ(配色)
6		②フォント ・形の心理的効果 ・形の捉える視点 ・描き方(レタリング)
7	③④は各自が例をもとに選択 ・レイアウト ・挿絵 ・素材 など	
7	色づくり・ポスターカラーの使い方 ・混色の基礎	
8	名刺のアイデア・学んだことを活かし最終案を練る	
9、10	制作 名刺交換	
11	振り返り	

創造的活動

①前時のふりかえり・連絡	②調べ学習			③まとめ
○調べ学習のポイント、レクチャーの内容の連絡	○主題の表現に必要な、名刺を構成する4つの要素について調べ学習をする。 【4つの要素】①色 ②フォント ③④は各自が設定			○オクリンクで今日学んだことを送る。
	書籍で調べる 	インターネットで調べる 周りの席の人と相談する 	レクチャー(自由参加) ①色彩心理 ②フォントの描き方 	・本日最大の収穫 ・参考になった意見 ・次回調べること

論点：子どもたちは、創造的活動を推し進めることができていたか。

齊藤先生のお話は裏面へ

論点
「子どもたちは、創造的活動を推し進めることができていたか」
○ 何をもってできたと言えるか。
・7-7-7-7と進められた。
△ 何をもってそう感じたのか。
と二に課題があったが、
・イメージはできているが計画書にたっている。
→ 問題意識はあっているが、いかにどう見せる。
・PCでできているが実際にやってみる。
・12月からの取り組み → 全体的にどう？
・書いているが問題意識 × 7-7-7-7

美術科の目標【学習指導要領 第2章 第1節 1教科の目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

Why

なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

What

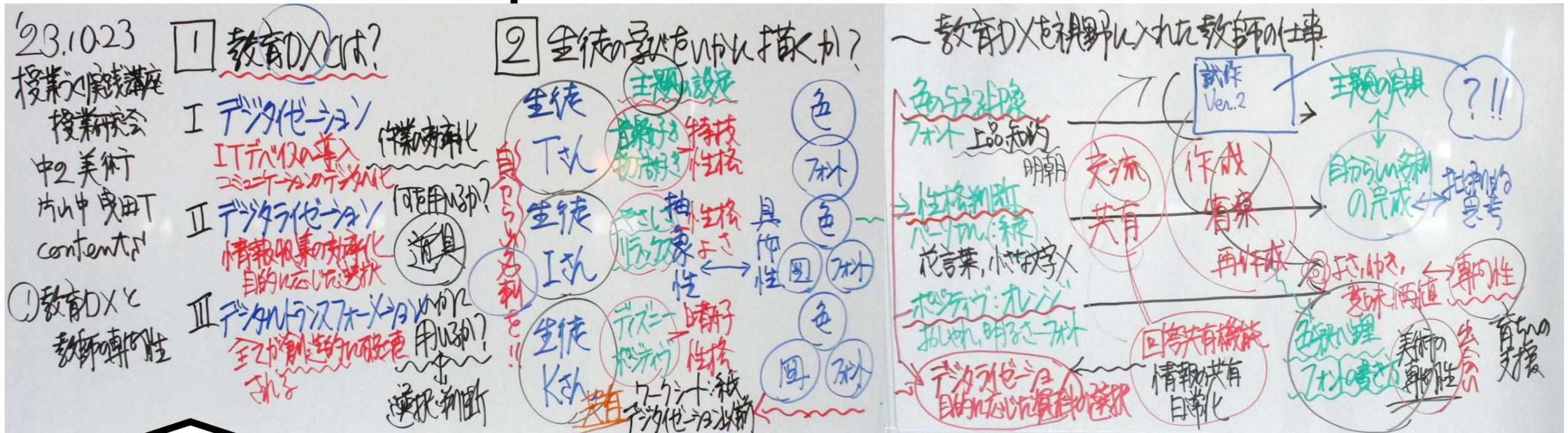
何を学ぶのか

子供達の学習対象は？

How

どのように学ぶのか

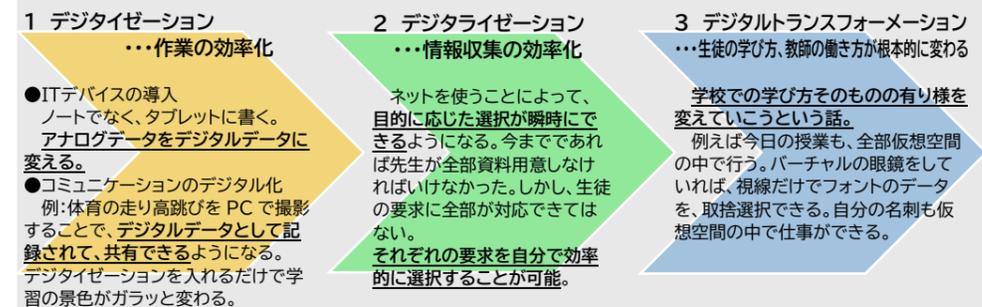
子供達の学習過程は？



1 教育DXについて

デジタルトランスフォーメーションは、3つの段階がある。

GIGAスクール構想、経産省が主導している「未来の教室」国は、こういう方向に舵を切っている。おそらく、次の学習指導要領改訂の時には、どんどん教育DXが押し寄せてくる。その時に、「自分は馴染まないから…」と言って肝心の「教科の本質」が取り残されたままになってしまう。



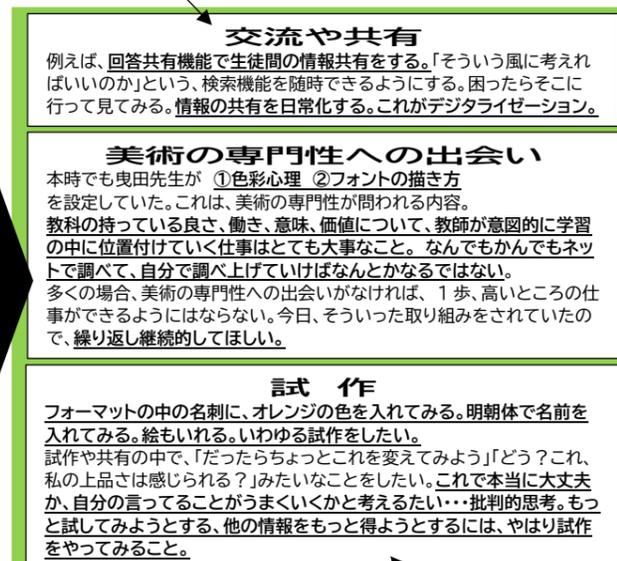
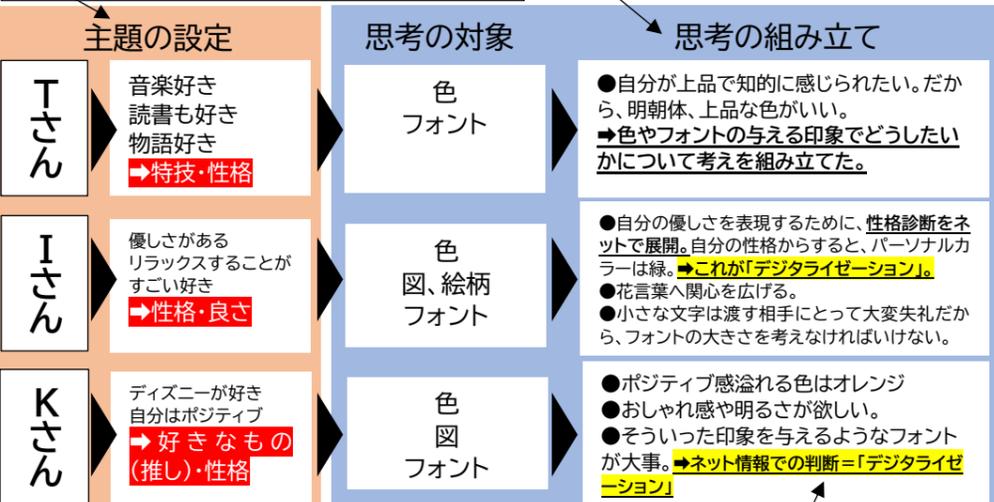
ここで間違っはいけないのは、それがいいからやりましょうという話ではない。世の中の流れが動いていく中で、私たちが、学校教育としてどういうスタンスで個別最適な学び、協働的な学びを描いていくかを確認しておかないと、何をやっているか分からなくなってしまう危険性があるということ。デジタルトランスフォーメーションは、全てが創造的に破壊されるという言い方を。今までの考え方がなくなる。絵の具も筆もなし。そういう感覚ではない。だから、現行の美術の学習指導要領では、絵の具、パレット、絵筆という記述は一切出てこない。それは、将来を少し視野に入れている。今日一番象徴的だったのは、誰も色鉛筆取りになかった。生徒の方がもうそうなっている。どの色がいいかも、パソコン上。そういう話になると、もしかしたらこの授業は紙を一切使わないかもしれない。曳田先生的には使いたかった。しかし、名刺を作っている業者さんは、紙に書くことも一切していない。フォーマットになっていて、そこにキャラクター、ロゴマークを入れ込んで、フォントは何にして、、、という仕事をしている。昔はきちんと描けるってことがものすごく大事な技能という時代もあった。でも、今、それが要求されていない。なぜかという、手描き以上にもしっかりと仕事ができる道具があるから。その道具を使う側の人間としていかに用いるか、その選択、判断が要求されている。もちろん、色彩の効果、構図、フォント、線の太さなどの美術としての技能も大切。それをどのように組み合わせるかということを見視野に入れていきたい。指導計画の方向性は、とてもよいのではないかな。ただ、それを、この先どういう風にしていったらいいか考えたい。

2 生徒の学びをいかに描くか？～教育DXを視野に入れた教師の仕事～

主題の設定が不安定だと、活動自体は推進されない。この主題とは「全員が自分らしい名刺を作る」これが学習課題。つまり、自分らしさとは一体何かを考えたい。それぞれが、いろんなことを書いていた。

それぞれの生徒がしっかりと理にかなった判断をしている。その思考の裏側に何かがあるかについて教師として考えなければならぬ。

この後は、自分なりの主題を受けて、主題の実現をする。主題の実現に至るまでどんなことがなされるかについても考えていかなければならない。



主題の実現 自分らしい名刺の完成

個々の能力をしっかりと理解することで、自分の能力を使いこなしながら主題に向かって創造的活動をすすめる生徒をサポートできるのかなと思えました。講義では自身のデジタルの活用について見直すきっかけになりました。(K先生)

【編集後記】有能な子供の力を信じ委ねるべきところ、価値ある教科の本質に出会わせるべきところの判断は教師にしかできない仕事だと強く感じた講座でした。(文責:教育センター山塾)

自分らしさは1人ひとり違う。大事なものは、抽象度の高い表現を、自分の名刺という具体的に落とす仕事。これが難しい。今日1番感じたのは、こんな名刺にしたいという絵柄を持っていないから抽象的な話が飛び交ってうまくいかなかった。

ネット活用により、目的に応じた資料の選択を可能にしている。教育DXの取り組みが位置づいている。しかし、この企画書は紙のままだった。次のチャレンジは、企画書のデジタル化。何でもデジタルにした方がいいという話ではない。理由は、共有ができるということ。生徒間でも共有ができるし、先生と生徒の間でもできる。毎回提出する必要はない。全部デジタルでできるようにする。そういうことを意識することも非常に重要なこと。

やはり教師の専門性は非常に大きい部分。先生が、1人ひとりの子供たちと、対峙しながら、丁寧にやり取りをして、生徒の感じていること考えていることをどうすれば実現できるかは、どんなに教育DXが進んだとしても、教師の専門性を持ってしか克服できない。中学校の先生方が、それぞれの教科について「主体的・対話的で深い学びがどううものか」を考えていくのも大切。子供たちの支援をより丁寧にしつつ、教育DXの良さもうまく活かしながら、これからの美術科教育を描いていくといいのではないかな。生徒は、これからも少しずつ、ステップアップすると思う。是非、今後も丁寧にいい美術の授業を創ってほしい。